

# 中学校生徒指導要録 (参考様式)

様式1 (学籍に関する記録)

**【中学校生徒指導要録の記載例と注意】**

- ① 原則として学齢簿の記載に基づき、学年当初及び異動の生じたときに記入する。
- ② 常用漢字・現代かなづかい・算用数字を用い、楷書で正確に記入する。  
記入は、原則として黒インクを用いる。コンピュータによる入力の場合については、別紙「指導要録等の電子化に関する参考資料」を参照のこと。
- ③ 固有名詞の旧字体はそのまま記入する。学校名及び所在地、校長・学級担任者氏名はゴム印でよい。スタンプインクは20年の保存に耐えるものを使用する。
- ④ 生徒・保護者の現住所、学校名及び所在地、校長・学級担任氏名など、変更あるいは併記する必要な生ずるものについては、その欄の上部に寄せて記入する。
- ⑤ 記入事項を削除・変更する場合は抹消事項を2本線で消し、抹消部分を読めるようにしておく(訂正印は不要)。
- ⑥ 誤記の訂正の場合は、2本線で消し、訂正事項を記入して訂正箇所に訂正者の印を押す(訂正印が必要)。

区分	学年	1	2	3
学 級		3	2	1
整理番号		15	12	14

通常整理番号は出席簿の順序に基づいた番号を用い、男女通し番号になっているが、学校で工夫してもよい。  
複式学級の場合は、その旨をカッコ書きで付記しておくもよい。

学 籍 の 記 録								
生 徒	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">ふりがな</td> <td style="text-align: center;">みやざき たらう</td> <td rowspan="2" style="width: 5%; text-align: center;">性 別</td> <td rowspan="2" style="width: 5%; text-align: center;">男</td> </tr> <tr> <td>氏 名</td> <td style="text-align: center;">宮崎 太郎</td> </tr> </table> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">原則として、学齢簿の記載に基づいて記入する。</p>	ふりがな	みやざき たらう	性 別	男	氏 名	宮崎 太郎	<p style="text-align: right;">令和3年4月 1日 第1学年 入学 第 学年編入学</p> <p style="font-size: x-small;">生徒が第1学年に入学した年月日を記入する。(市町村教委の通知した入学期日。原則として4月1日とする)第1学年の中途又は第2学年以上の学年に、在外教育施設や外国にある学校などから編入学した場合、又は就学義務の猶予・免除の事由の消滅により就学義務が発生した場合について、その年月日、学年及び事由等を記入する。この場合には、「第1学年入学」の文字を2本線で削除する。</p>
	ふりがな	みやざき たらう	性 別			男		
	氏 名	宮崎 太郎						
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">生年月日</td> <td style="text-align: center;">平成 20年 6月 23日生</td> </tr> <tr> <td>現住所</td> <td style="text-align: center;">宮崎市〇〇〇3番8号</td> </tr> </table> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">変更しに備えて、上に寄せて記入する。</p>	生年月日	平成 20年 6月 23日生	現住所	宮崎市〇〇〇3番8号	<p style="text-align: right;">令和4年9月9日 第2学年転入学 宮崎市立〇〇中学校 宮崎市〇〇2丁目6番10号 転居のため</p> <p style="font-size: x-small;">他の中学校(特別支援学校の中学部を含む)から転入してきた生徒について、転入学年月日(転入学通知書の指定日)転入学前に在学していた学校名、所在地及び転入学の事由等を記入する。</p>		
生年月日	平成 20年 6月 23日生							
現住所	宮崎市〇〇〇3番8号							
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">ふりがな</td> <td style="text-align: center;"><del>みやざき みつる</del> みやざき さちこ</td> </tr> <tr> <td>氏 名</td> <td style="text-align: center;"><del>宮崎 満</del> 宮崎 幸子</td> </tr> </table> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">生徒に対して親権を行う者を記入する。 行者がいないときは、後見人を記入する。</p>	ふりがな	<del>みやざき みつる</del> みやざき さちこ	氏 名	<del>宮崎 満</del> 宮崎 幸子	<p style="text-align: right;">(令和5年11月16日) 令和5年11月17日 福岡市立〇〇中学校 福岡市〇〇区〇〇丁目〇〇番地 保護者の転居のため</p> <p style="font-size: x-small;">他の中学校等に転学する場合には、転学先の学校が受け入れた日の前日に当たる年月日、転学先の学校名、所在地、転入学年及びその事由等を記入する。また、学校を去った年月日についても併記する。在外教育施設や外国にある学校などに入るために退学する場合は学齢を超過している生徒の退学の場合には、校長が退学を認めた年月日及びその事由等を記入する。なお、就学義務の猶予・免除をする場合又は生徒の居所が1年以上不明である場合は在学しないものとして取り扱い、在学しない者と認めた年月日及びその事由等を記入する。</p>			
ふりがな	<del>みやざき みつる</del> みやざき さちこ							
氏 名	<del>宮崎 満</del> 宮崎 幸子							
保 護 者	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">現住所</td> <td style="text-align: center;">生徒の欄に同じ</td> </tr> </table> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">校長が卒業を認定した年月日を記入する。原則として3月末日とする。</p>	現住所	生徒の欄に同じ	<p style="text-align: center;">卒 業</p> <p style="text-align: right;">令和6年 3月31日</p>				
	現住所	生徒の欄に同じ						
<p style="font-size: small;">生徒の現住所と同一の場合には、「生徒の欄に同じ」と略記する。</p>	<p style="text-align: center;">進 学 先 就 職 先 等</p> <p style="font-size: small;">進学した者は、進学した学校名及び所在地、就職した者は就職先の事業所名及び所在地、就職しながら進学した者は、その両者を記入する。家事又は家業に従事した者はその旨を記入する。卒業の際、進路が決まっていない者は確定したときに記入する。学齢超過による退学の場合には、退学後の状況もこの欄に記載する。</p>							
入 学 前 の 経 歴	<p style="text-align: center;">宮崎市立〇〇小学校卒業</p> <p style="font-size: x-small;">中学校に入学するまでの教育または教育関係の略歴(在籍していた小学校又は、特別支援学校小学部の学校名及び卒業時期等)を記入する。なお、外国において受けた教育の実情なども記入する。</p>	<p style="text-align: center;">卒 業</p> <p style="text-align: right;">令和6年 3月31日</p>						
学 校 名 及 び 所 在 地  (分校名・所在地等)	<p style="text-align: center;">宮崎市立〇〇中学校 宮崎市〇〇3456番地2</p> <p style="font-size: small;">学校名及び所在地を記入し、分校の場合には、本校名及び所在地を記入するとともに、分校名、所在地及び在学した学年を併記する。なお、上部に寄せて記入する。</p>	<p style="text-align: center;">宮崎県立〇〇高等学校(〇〇科) 宮崎市〇〇町〇〇番地</p>						
年 度	令和3年度	令和4年度	令和5年度					
区分 / 学年	1	2	3					
校 長 氏 名 印	●●●● ㊞	●●●● (4/1~10/30) ▲▲▲▲ ㊞ (10/31~3/31)	<p style="font-size: x-small;">各年度に校長の氏名、学級担任氏名を記入し、それぞれ押印する。 同一年度内に校長又は学級担任が代わった場合には、その都度後任者の氏名を併記する。 臨時的任用の教員が担当した場合も、その氏名を記入する。 校長・担任が押印する時期は、学年末にその年度の指導要録全ての記載が終了した時点か、生徒が転学・退学した時点である。 なお、氏名の記入及び押印については、電子署名を行うことで替えることも可能である。</p>					
学 級 担 任 者 氏 名 印	☆☆☆☆ ㊞ (4/1~8/31・2/1~3/31) ▽▽▽▽ (9/1~1/30)	■ ■ ■ ■ ㊞						

様式2 (指導に関する記録)

生徒氏名	学校名	区分	学年	1	2	3
宮崎 太郎	宮崎市立〇〇中学校	学級		3	2	1
		整理番号		15	12	14

各教科の学習の記録																	
教科	観点	学年	1	2	3	教科	観点	学年	1	2	3						
国語	知識・技能		B	B	A		知識・技能										
	思考・判断・表現		B	A	A		思考・判断・表現										
	主体的に学習に取り組む態度		B	A	A		主体的に学習に取り組む態度										
	評定		3	4	5		評定										
社会	知識	<p><b>【観点別学習状況】</b> 各教科の目標に照らし、その実現状況を観点ごとに評価し記入する。その際、「十分満足できる」状況と判断されるものをA、「おおむね満足できる」状況と判断されるものをB、「努力を要する」状況と判断されるものをCのように区別して評価を記入する。</p>	<p><b>【評定】</b> 必修教科の評定は、中学校学習指導要領等に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を「十分満足できるものうち、特に程度が高い」状況と判断されるものを5、「十分満足できる」状況と判断されるものを4、「おおむね満足できる」状況と判断されるものを3、「努力を要する」状況と判断されるものを2、「一層努力を要する」状況と判断されるものを1のように区分して評価を記入する。 選択教科を実施する場合は、各学校が評定の段階を決定し記入する。 評定の適切な決定方法等については、各学校において定める。</p>	特別の教科道徳													
	思考			学年	学習状況及び道徳性に係る成長の様子												
	主体			1	<p><b>【特別の教科道徳】</b> 学習活動における生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を個人内評価として文章で端的に記述する。</p>												
	評定			2	<p>(例) 問題となる場面において自分が取り得る行動を、友だちの意見も参考にしながら、様々な視点から考えようとしていた。</p>												
数学	知識																
	思考											3	<p>(例) 教材の登場人物に自分を置き換えて考えることで、これまでの行動を振り返りながら、自分なりの考えをもつことができるようになってきている。</p>				
	主体																
	評定																
理科	知識・技能																
	思考・判断・表現											総合的な学習の時間の記録					
	主体的に学習に取り組む態度											学年	学習活動	観点	評価		
	評定											1					
音楽	知識・技能																
	思考・判断・表現											<p><b>【総合的な学習の時間】</b> 学習活動及び各学校が自ら定めた評価の観点を記入した上で、それらの観点のうち、児童の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等、生徒にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述する。 評価の観点については、中学校学習指導要領等に示す総合的な学習の時間の目標を踏まえ、各学校において具体的に定めた目標、内容に基づいて定める。</p>					
	主体的に学習に取り組む態度																
	評定																
美術	知識・技能																
	思考・判断・表現																
	主体的に学習に取り組む態度																
	評定																
保健体育	知識・技能																
	思考・判断・表現																
	主体的に学習に取り組む態度																
	評定																
技術・家庭	知識・技能	<p><b>【特別活動の記録】</b> 各学校が自ら定めた特別活動全体に係る評価の観点を記入した上で、各活動・学校行事ごとに、評価の観点に照らして十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に、○印を記入する。 評価の観点については、中学校学習指導要領等に示す特別活動の目標を踏まえ、各学校において定める。その際、特別活動の特質や学校として重点化した内容を踏まえ、例えば、「主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度」などのように、より具体的に定めることも考えられる。記入に当たっては、特別活動の学習が学校や学級における集団活動や生活を対象に行われるという特質に留意する。</p>															
												特別活動の記録					
												内容	観点	学年	1	2	3
												学級活動	(例) よりよい生活を築くための知識・技能		○		○
外国語		生徒会活動	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現		○												
		学校行事	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度		○	○											

生徒氏名

宮崎 太郎

行 動 の 記 録

項目	学 年			項目	学 年		
	1	2	3		1	2	3
基本的な生活習慣	○		○	思いやり・協力			○
健康・体力の向上	○	○	○	<b>【行動の記録】</b> 各教科、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動やその他学校生活全体にわたって認められる生徒の行動について、設置者は中学校学習指導要領等の総則及び道徳科の目標や内容、内容の取扱いで重点化を図ることとしている事項等を踏まえて項目を適切に設定する。また、各学校において、自らの教育目標に沿って項目を追加できるようにする。 各学校における評価に当たっては、各項目の趣旨に照らして十分満足できる状況であると判断される場合に○印を記入する。			
自主・自律							
責任感			○				
創意工夫							

総 合 所 見 及 び 指 導

第1学年	<p><b>【総合所見及び指導上参考となる諸事項】</b>                      中学校における総合所見及び指導上参考となる諸事項については、生徒の成長の状況を総合的にとらえるため、以下の項目を参考に、<b>特記すべき内容について、箇条書き等により端的に記述し、必要最小限にとどめる。(全ての項目について記載しなければならないものではない。)</b></p> <p>また、記入に際しては、生徒の優れている点や長所、進歩の状況などを取り上げることに留意する。ただし、生徒の努力を要する点などについても、その後の指導において特に配慮を要するものがあれば記入する。なお、食物アレルギー等生徒の成長に関わる状況や通級指導の記録など、確実に引き継がなければならない内容については、必ず明記する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習及び行動の様子</li> <li>・ 特別活動に関する事実</li> <li>・ 学校内外におけるボランティア活動など社会奉仕体験活動</li> <li>・ 生徒の特徴・特技</li> <li>・ 表彰を受けた行為や活動</li> <li>・ 通級による指導の状況（学校名、指導期間等）</li> <li>・ その他指導上参考となる諸事項 等</li> </ul>
第2学年	<p><b>【出欠の記録】</b></p> <p>① 授業日数…生徒の属する学年について授業を実施した年間の総日数を記入する。                      臨時に、学校の全部又は学年の全部の休業を行うこととした日数は授業日数には含まない。この授業日数は、原則として、同一学年のすべての生徒につき同日数とすることが適当である。ただし、転学又は退学等をした生徒については、転学のため学校を去った日又は退学等をした日までの授業日数を記入し、転入学又は編入学等をした生徒については、転入学又は編入学等をした日以後の授業日数を記入する。</p> <p>② 出席停止・忌引等の日数…以下の日数を合算して記入する。                      学校教育法及び学校保健安全法による出席停止日数、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律による入院の場合の日数、臨時に学年の中の一部の休業を行った場合の日数、忌引日数、非常災災等生徒又は保護者の責任に帰すことのできない事由で欠席した場合などで、校長が出席しなくてもよいと認めた日数、その他教育上特に必要な場合で、校長が出席しなくてもよいと認めた日数。</p> <p>③ 出席しなければならない日数…授業日数から出席停止・忌引等の日数を差し引いた日数を記入する。</p> <p>④ 欠席日数…出席しなければならない日数のうち病気又はその他の事故で生徒が欠席した日数を記入する。</p> <p>⑤ 出席日数…出席しなければならない日数から欠席日数を差し引いた日数を記入する。                      なお、学校の教育活動の一環として生徒が運動や文化などにかかわる行事等に参加したものと校長が認める場合には、指導要録の出欠の記録においては出席扱いとすることができる。                      不登校の生徒が適応指導教室等学校外の施設において相談・指導を受け、又は自宅においてIT等を活用した学習活動を行ったとき、そのことが当該生徒の学校復帰のために適切であると校長が認める場合には、指導要録の出欠の記録においては出席扱いとすることができる。この場合には、出席日数の内数として出席扱いとした日数並びに生徒が通所若しくは入所した学校外の施設名又は自宅においてIT等を活用した学習活動によることを記入する。</p> <p>⑥ 備考…出席停止・忌引等の日数に関する特記事項、欠席理由の主なもの、遅刻、早退等の状況その他の出欠に関する特記事項等を記入する。</p>
第3学年	

出 欠 の 記 録

区分	授業日数	出席停止・ 忌引等の日数	出席しなければ ならない日数	欠席日数	出席日数	備 考
1 学年	196	3	193	2	191	忌引3(祖父死亡3)、欠席は病気1(風邪1)、事故欠1(旅行1)
2	例えば、授業日数が年間計画では200日であったが、学校の全部又は学年の全部が、4日間臨時休業となった場合には、授業日数は196日となる。なお、この場合の備考欄は記入しない。					
3						

